

旅は 人を育てる

人と人の出会いは距離を超えていきました

大橋敦史 東海シアタープロジェクト代表

違う環境で芝居を立ち上げる

旅は人を育てる。PmP2006でインタビューした際、燐光群の古元さんが旅公演について語った言葉です。

「未知の観客との出会い」「比較された事の無い旅先の表現との出会い」「閉塞感と戦っている新たな友人との出会い」「遙か先の道を切り開いてきた先達との出会い」「普段のフィールドの延長では向き合う事のなかった、仲間の新たな一面との出会い」

旅公演は出会いによる刺激と、それによって浮き彫りになる問題点や痛みを超えて、初めて成り立つものではないでしょうか。普段とは違う環境で芝居を立ち上げるという行為は、やはり人を育ててくれるものなのだと感じます。

この度の寄稿では、私が2007年に手掛けた名古屋の演劇祭「カラフル2」と、名古屋・東京をつないだ「廃校/366.0」という公演についてご報告いたします。

新しいショーケースイベント

「カラフル」は名古屋の若手演劇人達が立ち上げた、ショーケースイベントです。2003年9月に第1回となる「カラフル」が、名古屋市中心街の中劇場・アートピアホールにて開催されました。娯楽性が高く勢いのある「若手エンターテインメント系」の9カンパニーが結集し、短期演劇イベントとしては稀に見る成功を収めました。

そして「カラフル2」が動き出したのは2005年10月。前大会参加カンパニーの解散・活動停止や、実行委員会中軸スタッフの東京移転などが続く中、現在の名古屋の演劇シーンには何が不足し、それを払拭するために今何をすべきだろうか。危機意識を持った有志が集まり、忌憚りの無い議論が幾度も交わされました。そしてたどり着いた結論は、若手エンターテインメント系という枠組みを撤廃する事でした。地域も世代も超えた真の意味でのカラフルな祝祭を巻き起こすと共に、瞬間の輝きに止まらない演劇活性フェスに育てると決意しました。

2007年ゴールデンウィーク。長久手町文化の家「風のホール」森のホールをメイン会場とし、16カンパニーが2日間で32ステージを上演。1時間という限られた上演時間に、僅か15分の転換時間。作品を創る上では決して好環境とは呼べない中でも、それぞれの核

メガトン・ロマンチック+NEVER LOSE「廃校/366.0」
(名古屋公演)
2007.3.9[金]-14[水] 名古屋市千種文化小劇場/千種文化小劇場企画公演
(東京公演)
2007.6.7[木]-11[月] アトリエ春風舎
2007.7.18[水]-22[日] 東京芸術劇場小ホール1
——メガトン・ロマンチック活動停止のため中止、NEVER LOSEが単独公演

となる部分だけは譲らず、粛々と作品を送り出し続けました。多様な演劇表現と出会う中で、それぞれのカラーの少しずつ重なる部分と特色を発見するという、豊かな演劇体験を生み出したものと振り返っています。

県外からは4カンパニーが参加。名古屋を拠点とするカンパニーも、



「廃校/366.0」前日譚 撮影 西岡真一

from
名古屋



「カラフル2」会場風景 撮影 小嶋夕希子

新進の若手から大ベテランまでが揃い踏み。人々が交差する広場が生まれました。カンパニー達には新たな出会いが押し寄せる、それぞれにとって有意義な旅となりました。

偶然の交流から生まれた企画

もう一つの旅は「廃校/366.0」です。

名古屋を拠点とするメガトン・ロマンチック(以下メガチカ)の刈馬カオスが東京に在住していた当時、東京を拠点とするNEVER LOSE(主宰・谷本進)の作品「again」を、こまばアゴラ劇場で観劇した事から全ては始まりました。刈馬は自身のウェブページ上で絶賛のレビューを掲載し、それを偶然みつけたNEVER LOSE作・演出の片山雄一が、今度はメガチカの作品を観るために名古屋市千種文化小劇場へと足を運んだ事から親交は始まりました。

偶然が運命か、そうして出会った両カンパニーは、劇団間の合同定期ワークショップ、互いの作品の観劇、本公演に付随したイベントでの両カンパニー作品の連続上演など、交流を積み重ねていきました。双方の東京・名古屋間の往復は3年間で40回以上を数えるものとなっていました。

私が初めてNEVER LOSEを観た印象は、登場人物達の不器用さと、その仲の悪さでした。仲違いし、修復不可能な終わっているはずの関係なのに一緒に続けるのは何なんだと一人客席でうずくまりました。一方メガチカも作品内に出てくる人物達は基本的に仲が悪そうで、どこかギスギスした痛みを抱えている。どう考えても関係は終わるしかなさそうなのに一緒にいる。

そんな両カンパニーが交流を続ける中で、この互いの差異と共通点に興味を沸かしました。廃校という記憶が堆積する場で起こった事件の予兆と余韻を描くというコンセプトで、事件の366日前をメガチカが、事件の366日後をNEVER LOSEが上演するという前日譚と後日譚だけの演劇を連続上演する事になりました。互いの持ち味を活かした上で、別々に稽古が出来る。1日3ステージだって上演可能。ちなみに、名古屋・東京のJR在来線の距離は366.0km。私のオフィスは廃校となった小学校にある。「廃校/366.0」は私たちをつなぐ作品として生まれました。名古屋・東京の若手演劇人によるコミュニティ「366.0 project」も立ち上がり、人と人の出会いは距離を超えていきました。

演劇博覧会「カラフル2」
2007.5.3[祝]-4[祝] 長久手町文化の家(全館使用)
参加団体:
よこしまプロコリー
劇団Hi-T Growth
avecビーズ
総合劇団俳優館
試験管ヘビー
西田シャトナー演劇研究所
メガトン・ロマンチック
劇団翔群
煉獄狼
てんぶくプロ
少年ボーイズ
劇団オートバイ
(以上、名古屋)

Ort-d.d(東京)
France_pan(大阪)
劇団・幹生(東京)
ニットキャップシアター(京都)

しかし、残念な事に公演的には成功に終わった名古屋公演終了後、メガチカが集団創作作業を継続する事が困難となり、東京公演は中止となりました。「満月の夜、カタツムリは東へ進む」という「カラフル2」参加作品を最後に、メガチカは長期活動停止となりました。東へ行きたかった。無力を悔いる日々です。

私は単独で行われた東京公演、NEVER LOSEの「廃校/366.0〜後日譚〜」の受付に立ちながら、公演をつくる私の仕事と、作品をつくるカンパニーの仕事とを思い返し、それでも演劇を続けるのか、その上でこの旅は必要だったのかと考えていました。

今現在もまだまだ考え中ですが、それでも私はこの旅で、少しだけ育ったんだと思っています。



「廃校/366.0〜後日譚〜」 撮影 西岡真一

東海シアタープロジェクト

1999年結成。名古屋を拠点に現代演劇の制作を手掛けると共に、演劇環境整備にも取り組む。2006年、一般向けワークショップ等の活動が認められ、愛知県コミュニティビジネス優良モデル事業者に選定される。2008年より外部公演への制作協力業務を廃止。現在は自主企画業務に専心している。